

教育の理念

心理学科は、理論と実践の両面から幅広く人の心と行動に関する知識を学ぶことを通して、客観的な分析、判断、洞察など科学的なものの観方および考え方を身につけた、社会の広い分野で活躍できる人間性の豊かな人材の養成を目的とする。それは、心理学についての高度な専門性と幅広い教養や市民意識を基礎力として、積極的に社会を支え、変革を試みる事が可能な創造的な人材であり、さらには国境を越え、地球的な視野に立って個人の幸せや人類の将来を考えようとする志を持った人材である。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学科が定める124単位以上を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

客観的な判断や思考を備えた科学的な態度を持ちつつ、駒澤大学の建学の理念である仏教の教えと禅の精神を深く理解し実践する主体性を備えている

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

- ・人間を複眼的、重層的に理解するための社会、文化、自然に関する幅広い知識を習得している
- ・多様な文化や価値観を理解し、尊重できるような柔軟な視点を持っている

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

- ・人間や人間社会に関する多様な情報を実証的な方法で収集し分析することができる
- ・収集した情報から問題を発見し、かつ問題を解決する適切な手段を考えることができる
- ・問題やその解決法について根拠に基づいた説明ができる

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

- ・適切に自己を主張し、かつ他者の話を公平に聴くことができる
- ・論理的かつ簡潔に話したり書いたり、発表することができる
- ・他者と協調、共同して生産的な活動に従事することができる
- ・自ら計画し、行動し、評価し、改善ができる

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

- ・基礎領域ならびに応用領域における心理学の知識を体系的に理解していること
- ・実証的な方法でデータを収集し分析するための情報処理力と数理能力を備えていること
- ・得られた情報や知見を論理的かつ多面的に整理し、社会に発信できること

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている		学修評価の観点												
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○					◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎					○	○	○	○	○	◎
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○				○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎				○	◎	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○				◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科は、学位授与の方針を達成するために、教育課程を大きく専門教育、基礎教育、教養教育の区分に分け、それらを体系的に学習できるように編成する。これらの科目は、直接的あるいは相互補完的に科学的な課題探究能力および実践的な課題解決能力の向上を促すことを目的とし、各科目は講義形式ならびに少人数の演習・実習形式のクラス編成のもとに双方向的な授業を行う。

1.教育内容

- 基礎教育として、コミュニケーション・スキル及び言語操作能力を開発するために、「キャリア教育入門」「外国語科目」「実験実習科目」「演習科目」が配置されている。また、情報リテラシーの習熟のため、1年次必修科目として「コンピュータ実習」、2年次以降も選択科目として「情報処理Ⅰ・Ⅱ」を配置した。さらに、数理データ操作技能の上達のために、1年次必修の「心理統計学」、その他の「実験実習科目」「卒業論文」を必修科目として配置した。
- 専門教育として、心理学における基盤的知識を体系的に学習するために、1年次に「心理学概論」、2年次「心理学基礎実験」、「心理学研究法」、3年次に「心理学実験演習」を配置した。さらに1年次に学んだ「仏教と人間」の発展科目として「禅心理学」を3年次の必修科目として配置した。さらに、情報や知識を論理的かつ多面的に整理するとともに、それを呈示する能力を磨くため、3年次選択科目として「心理学特殊演習」、4年次必修の「演習」などの演習科目を体系的に配置し、4年次必修の「卒業論文」の作成でその涵養をはかっている。
- 教養教育として、社会、文化、自然に関する知識に基づき、人間社会への認識を拡大させるために、宗教教育科目、全学共通科目、保健体育科目が配置されている。

2.教育方法

- 高校と大学、及び大学の基礎教育と専門教育を体系的に有機的に関連づけるための導入教育を実施している。例えば、1年次全員が履修する「心理学入門」は、専任教員全員が分担して担当している。これにより、大学での学修のスキルを学ぶとともに、各教員の専門領域の研究を傾聴することで、

心理学の色々な領域への関心が高まるとともに自らの将来の学修計画が立てやすくなる。

- 2) 実験や実習科目に関しては、殆どがアクティブ・ラーニング形式であり、学習後の学生への手だてもレポート課題提出とその添削・返却と個人レベルでの教育を実施している。
- 3) 自立した人間として常に社会貢献をするという意識をもたせるために、1年次よりキャリア意識を開発するための1年次全員履修の「キャリア教育入門」を実施している。

3. 評価

心理学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、以下の表に示すレベルと視点、及び心理学科の教育課程レベルと科目レベルから学修成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル (学部・学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育取組状況 (対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査（学修時間等） ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・進級率（年次） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・資格試験合格率 ・卒業論文提出率
科目レベル（個々の科目）		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学修ポートフォリオ ・学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1~2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語	1	1~2				◎		「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。
	文章読解・作成	2	1				◎		日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		様々な異言語、異文化に対する多角的な知識と深い教養を身につける。
健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	

専門教育科目	導入教育科目	2~4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2~4	1~4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目	1~4	1~4			○	○	◎	実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目	1~4	1~4			○	○	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4~8	4	○			○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学科では、幅広い知的好奇心を持ち、目的意識をもって積極的に学びに取り組み、ルールや規範を尊重する社会性を備えた学生を求めている。

1. 心理学科の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、できれば初歩的な数学や理科の授業を受けていることが望ましい。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 入学後は、建学の理念である仏教の教えと禅の精神を理解し、心理学の種々の領域への関心を高めるとともに、科学的なものの見方や考え方をすることができる。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 実験や調査によって情報収集したデータを読解し、考察する、そして結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 主体的に自ら考え、行動するだけでなく、他者の意見も採り入れ、協働する姿勢をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。 判断基準 全学部統一日程入試は、全問マークセンス方式で実施し、T方式は、マークセンス方式と記述式を併用して選抜を行う。
	T方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で幅広く基礎学力を修得し、将来の社会貢献をめざす学生を求めるものである。 判断基準 大学入試センター試験の教科のうち、国語、外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目選択)、選択科目(地理歴史、公民、数学、理科)の成績により入学者の決定を行なう。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、学ぶ意欲が高く、自ら考え行動する自立性や、周囲の人間と協力し、社会のルールや規範を尊重できる学生を求めている。 判断基準 面接による口頭試問だけでなく、科学的な態度を把握するために、図や表などの数値データの読解力を備えているかを確認するための小論文試験を行っている。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、指定されたスポーツ競技で高い能力を発揮できるとともに、心理学科での学びの意欲の高い学生を求めている。 判断基準 競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、面接による口頭試問では学びの意欲を、小論文では基礎学力を確認し、判定を行っている。
		小論文	○	○	○	○	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、学ぶ意欲に満ち、社会への貢献意欲の強い学生を求めている。 判断基準 基礎的学力を確認するために、小論文、英語および面接による口頭試問を行っている。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を求めている。 判断基準 日本語(小論文)の試験、外国語と、勉学の意欲などを確認するため面接による口頭試問を行っている。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			外国籍を有し、日本の大学で教育を受ける意欲の強い学生を求めている。 判断基準 日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とし、小論文と面接による口頭試問を行っている。
日本留学試験(成績)		◎					
筆記		◎					
面接口試		○	◎	◎	◎		

	編入学試験	出願書類	○	○			<p>これまで、大学・短期大学・高等専門学校等で学んだ知識や技術を、心理学の領域でさらに高めようとする意欲のある学生を求めている。</p> <p>判断基準</p> <p>心理学に関する基礎知識と英語の筆記試験を課すとともに、意欲などを判定するための面接による口頭試問を行っている。</p>
		筆記	◎				
		教科	◎				
		面接口試	○	◎	◎	◎	